



委員長
環境産業観光委員会

●残暑お見舞い申し上げます

皆様、お元気で暑い夏を乗り切って、お変わりなくお過ごしのことと思います。年々早い時期から暑くなり、実りの秋を前に農作物への影響がなければ良いかと気を揉んでいます。

さて、6月25日から7月10日まで、新会派として初の定例県議会に臨みました。

6人の仲間で会派「県政ながの」を結成し幹事長として議会活動に取り組んでまいりましたが、同僚議員である金子ゆかりさんが諏訪市長に転出され5人となりました。6名に満たなければ交渉会派になれないため、今後について相談・熟慮の結果、地域の課題に向き合い、国との関わりが必要な中で一番仕事がしやすい会派に所属したいと考え、「県政ながの」の仲間とともに「長野県議会自由民主党県議団」へ合流することといたしました。

また、常任委員会では環境産業観光委員長を拝命し、広報委員会副委員長、決算特別委員会委員に就任いたしましたことをご報告申し上げます。

「地域の希いを県政に!」という基本姿勢のもと、地域の未来を見つめ、安心・安全な地域作りをめざして、地域の代表として3期12年の経験を踏まえ、より充実した活動をしてまいります。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、皆様のご期待に、必ずや添えるよう粉骨砕身努力してまいります所存でございます。

今後とも、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年6月定例会一般質問から

◎御嶽山の再捜索について

Q. 6月4日に開催された「長野県御嶽山噴火災害対策本部員会議」において、行方不明者の再捜索を実施することが決定された。今後の再捜索に向けた日程や捜索の方法など、現在検討している内容について。

A. (知事)再捜索に向けた手順としては、まずは調査隊の派遣、その後先遣隊を派遣し、捜索隊を派遣していくという三段階で実施していく。

再捜索にあたっては、昨年の捜索救助活動終了後、県警において行方不明者の方々の目撃情報、遺留品の発見場所等を総合的に整理・分析し、足取り等の把握を継続して行ってきており、こうした情報を踏まえて重点的に捜索を行っていきたい。隊員の安全確保に留意しつつ、ご家族の気持ちに寄り添いながら、全力で再捜索をしてまいります。

◎雪崩による孤立集落解消のための県道整備について

Q. 新潟県津南町を経由せず、栄村役場から秋山地区へ通じる五宝木～極野間の整備の必要性・重要性について、平成18年2月の土木部長答弁を踏まえ、現在の認識と、それ以後実施した県道整備による具体的な整備効果並びに現在の本区間の整備状況について。

A. (建設部長) 栄村秋山地区への冬期の交通確保という観点から、当地区の道路整備の重要性は十分認識している。極野地区の440mについては、平成18年度から25年度まで道路改築事業を実施し、冬期交通の安全確保に一定の効果が見られたと考えている。現時点で、本路線の未整備区間は、五宝木から極野間の約11kmとなっており、平成18年度に複数のルート案を検討している。いずれの案も多額の建設費が見込まれること、新設道路となるため供用までに年月を要すること、さらに維持管理面の課題があることから、事業化が困難となっている。このため冬期間に秋山郷への唯一のルートとなる国道405号、現道の強化に重点を置き、新潟県で5か所2.9km、長野県でも小赤沢など10か所3.5kmの整備を進めている。



5/3 秋山郷山菜まつり

◎県の行政機構のあり方について

Q. 去る6月8日付で長野県行政機構審議会会長に現地機関の組織体制を中心とした県の

行政機構のあり方について諮問された。今回の現地機関の組織体制を中心とした県の行政機構のあり方の検討が、効率化・合理化のために諮問されたものではないと思うが。

A. (総務部長) 県の人口減少は避けられない中で、限られた人員で効率よく県政課題に対応することはもとより当然であるが、今回の検討は、地域の課題に対して現地機関が主体的かつ総合的に取組むことができる課題解決型の組織体制や、効果的な市町村支援及び住民の利便性に配慮された組織体制づくりを主な目的としている。

Q. 「長野県行政・財政改革方針の概要」では、平成24年度から28年度の5か年において一般行政部門で328名の削減を、教育部門で1,044名の削減を年次別定員適正化計画が示されている。現時点ではこの計画通り職員数の削減が行われているのか。

A. (総務部長) 定員適正化計画は5年間の計画だが、そのうち24年度から26年度までの間に、一般行政部門では132名、教育部門では440名の合計572名を削減する計画となっている。この実績は、一般行政部門では103名、教育部門では458名の合計561名の減となっており、5か年計画の途中経過ではあるが、計画に対して削減数は11名少ない状況となっている。

Q. 子どもの数が減少していることは紛れもない事実だが、困難を抱えた子供たちは年々確実に増えている。小・中学校の教員の削減に当たってはどの辺りをどの様にお考えか。

A. (教育長) 少子化により児童生徒が減少してくるので、それに伴う学級数の減や学校の統廃合の進展により、今後も必要となる教員数は減少していくものと考えている。一方、議員ご指摘のとおり学校を取り巻く環境は複雑、困難化し、児童生徒への支援が多様化する中、教員に求められる役割の拡大に対応した教育環境を考えていくことも大変重要な事と考えている。学校における教育環境の充実を図る上では、教員の質の向上と量の充実に努めていくことは当然必要なことではあるが、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーなどの様々な専門的な人材の活用や、地域のボランティアの方々にご支援いただくシステムを構築していくなど、地域とともに学校全体の教育力を向上していくことが重要と認識している。

教員の定数については、国において財政制度等審議会から、さらなる合理化を検討すべきとの建議が出され、これに対し文部科学省が反論し、知事会や市町会も反対するなど、今まさに議論がなされている。こうした国の動向も踏まえながら、県教育委員会としても、より望ましい教育環境の整備に取り組んでいけるよう努めてまいります。



5/21 知事秋津小学校訪問

◎全国都市緑化フェアの県内における開催について



4/30 阿部知事栄村訪問(泉平地区)



6/11 千曲川等災害対策連絡協議会現地調査(下境地区)



6/20 第27回北信地区障がい者スポーツ大会ジャベリックスローに挑戦



7/29夏休み県庁見学イベント「質疑応答模擬体験」



5/21 アスパラまつり「アスパラン」と



5/21 知事杯飯山市マレットゴルフ大会(初めて知事ご本人がお見えになりました)



8/11 飯山斑尾新井線開通・新幹線飯山駅周辺施設竣工式

活動あれこれ